

レタス、キャベツの冠水時期、時間と被害の関係

淡路地域では、近年、大型台風やゲリラ豪雨による気象災害を受ける頻度が高まっており、海拔の低いほ場では、冠水被害が問題となっている。そこで、淡路地域の代表的な品目である、レタス・キャベツを冠水させ、冠水程度と被害の関係を明らかにした。

内容

プランターを用いてキャベツ2株、レタス2株を、それぞれ2011年9月14日に3プランターに定植し、栽培した。品種はレタスでは「J-31」、キャベツでは「松波」を用い、淡路で最も台風等に遭遇しやすい早期の作型で試験を行った。

定植10、20日後、結球初期、収穫直前の生育ステージごとに、植物体全体をプランターごと水没させ、所定の冠水時間（6、12、24時間）ごとに引き上げた（写真）。収量調査時、結球内葉で泥が付着している葉の数をカウントし、泥かみ程度を調査した。

結果、レタスでは初期に枯死した定植10、20日後の24時間冠水区を除いて結球株率の低下はみられなかった。定植10日後～結球初期の12時間までの冠水では生育抑制が起こり結球重も軽くなった。収穫期の冠水では、冠水時間に関係なく泥かみし、内部の腐敗も見られた（図1）。

キャベツを冠水させると、定植10日後では、12時間までであれば、不結球となることはなかったが生育の抑制が見られた。一方、定植20日後～結球

初期では、不結球となる株が増え、冠水に弱い時期であった。収穫期の冠水では結球重への影響は小さいものの、泥かみにより出荷できなかった。いずれの生育ステージにおいても、冠水時間が長くなるほど結球重は小さくなり、24時間冠水させた区では枯死、又は不結球となった（図2）。

今後の方針

冠水を想定した排水改善等の事前対策、冠水した場合の肥培管理等の事後対策の効果を検証する必要がある。

中野 伸一（淡路 農業部）

（問い合わせ先 電話：0799-42-4880）

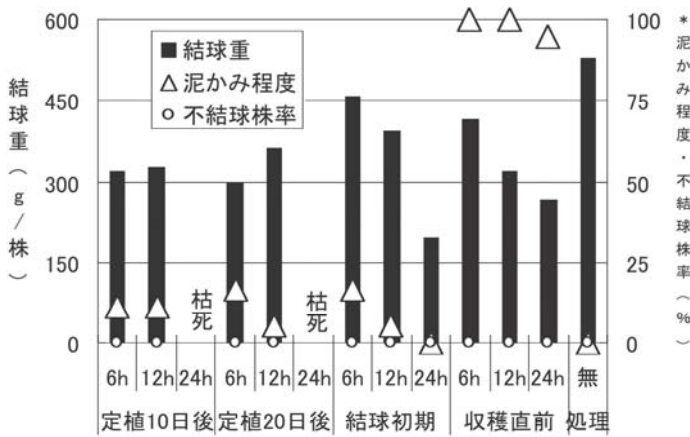


図1 冠水時期・時間の違いがレタスの結球重・泥かみに及ぼす影響

*: 泥かみ程度=(指数1の球数×1)+(指数2の球数×2)+(指数3の球数×3)/(全球数×3)×100 指数0:なし 1:軽(1~2枚) 2:中(3~5枚) 3:重(5枚以上)

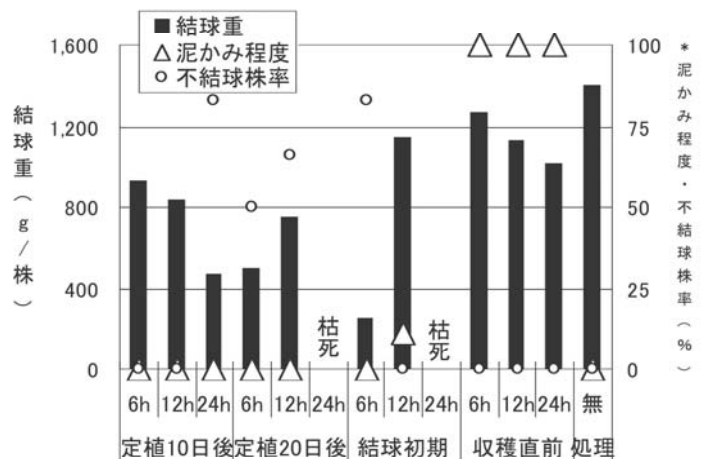


図2 冠水時期・時間の違いがキャベツの結球重・泥かみに及ぼす影響

*: 図1に同じ